

2019年度 JBAルールテスト用問題集 (150問)

2019年11月29日更新

| | 問題番号 | 問題 | 解答 | 分類 | 推奨難易度 (D~A) | 備考 |
|--|------|---|----|------------------------------------|-------------|----------------------------|
| 【Q1】 第1章 ゲーム 第2章 プレーイングコート、 用具、器具 | 1 | ゲームは、審判、コミッショナー（同席している場合）によって進行される。 | × | 第1条 定義 | D | ルールブック 1-1 |
| | 2 | バックコートとは、自チームのバスケットの後ろのエンドライン、サイドライン、センターラインで区切られたコートの部分をいい、自チームのバスケットとそのバックボードの内側の部分を含む。 | ○ | 第2条 コート | D | ルールブック 2-2 |
| | 3 | スリーポイントラインは、スリーポイントフィールドゴールエリアに含まれない。 | ○ | 第2条 コート | D | ルールブック 2-4-4 |
| | 4 | ノーチャージセミサークルのラインは、ノーチャージセミサークルエリアには含まれない。 | × | 第2条 コート | D | ルールブック 2-4-7 |
| | 5 | バスケットボールのゲームを行うときには、2種類以上の明瞭に異なる音色の、大きな音の出るブザーを用意しなければならない。 | ○ | 第3条 用具・器具 | D | ルールブック 3条 |
| 【Q2-Q3】 第3章 チーム 第4章 プレーの規定 | 6 | タイムアウトもしくはプレーのインターバル中、交代要員がスコアラーに交代を申し出たとき、プレーヤーは交代要員となる。 | ○ | 第4条 チーム | D | ルールブック 4-2-3 |
| | 7 | 怪我をしたプレーヤーは速やかに（約30秒以内）プレーを継続できない場合はそのプレーヤーは交代しなければならない。 | × | 第5条 プレーヤー：怪我 | C | ルールブック 5-3 |
| | 8 | 出血をしたり傷口の開いているプレーヤーが交代し、その後タイムアウトが認められ、その間に回復した場合はタイムアウト終了後プレーを続けることができる。 | × | 第5条 プレーヤー：怪我 | C | インプリ 5-6 |
| | 9 | チームが、ゲームができるプレーヤーをゲーム開始予定時刻を10分過ぎた時点で揃えられた場合、合理的な理由があればテクニカルファウルを与えてゲームを開始する。 | × | 第9条 ゲーム、ピリオドの開始と終了 | C | インプリ 9-2 |
| | 10 | フリースローの場合、審判がシューターにボールを渡すため制限区域に入った時、ボールはライブになる。 | × | 第10条 ボールのステータス（状態） | C | ルールブック 10-2 |
| | 11 | 審判が誤ってオルタネイティングポゼッションのボールを別のチームに与えた場合、ボールがコート上のプレーヤーに触れるまでは誤りを訂正することができる。 | ○ | 第12条 ジャンプボール・オルタネイティングポゼッション | C | インプリ 12-4 |
| | 12 | フィールドゴールかフリースローのショットをしてボールがプレーヤーの手から離れたとき、チームコントロールは終了する。 | ○ | 第14条 ボールのコントロール | C | ルールブック 14-1-3 |
| | 13 | ショット動作中のプレーヤーがファウルをされた後にボールをパスした場合は、シュート動作中にファウルをされているので、フリースローを与える。 | × | 第15条 ショットの動作中のプレーヤー | D | ルールブック 15-1-2 |
| | 14 | 5個のファウルを宣せられたプレーヤーあるいは失格・退場になったプレーヤーの交代はおよそ15秒以内に行われなければならない。 | × | 第19条 交代 | B | ルールブック 19-3-6 |
| | 15 | ゲーム中コート上でプレーできるプレーヤーが2人になったチームはゲームの途中終了により負けとなる。 | × | 第21条 ゲームの途中終了 | C | ルールブック 21-1 |
| | 16 | センターライン付近のフロントコートでボールを両手で持ってコントロールしているA3に対して、B5が正当にディフェンスを行なった結果、お互いにボールをしっかりと掴んだ状態となった。その状態でA3はトラベリングにならない範囲でピボットを行なったが、その足がチームAのバックコートに触れてしまった。審判はA3のバックコートバイオレーションを宣した。 | × | 第23条 プレーヤーのアウトオブバウンズ、ボールのアウトオブバウンズ | C | ルールブック 23-2-3 |
| | 17 | A1はドリブルを走っている状態で行なっていたが、B2がディフェンスに来たので急に止まりドリブルを終えた。その際A1は勢い余ってバランスを崩したため、ピボットフットを動かさずボールを両手で持ったまま、その持っているボールでフロアに触れ体を支えバランスを保った。審判はA1がボールを再び床に触れさせたので、ダブルドリブルのバイオレーションを宣した。 | × | 第24条 ドリブル | B | インプリ 24-5 ルールブック 24-1-1 |
| | 18 | ドリブルを終えたA2はB3とB4に激しくディフェンスをされてボールを奪われそうになった。A2はピボットをしながらボールを奪われないようにしていたが、完全にB3とB4によって囲まれてしまいこれ以上ピボットをすることができなくなってしまった。その時にノーマークのA5を見つけたのでA2はピボットフットでジャンプをして空中にいる間にA5にパスを行なった。審判はA2がピボットフットを床から離れたので、トラベリングのバイオレーションを宣した。 | × | 第25条 トラベリング | C | ルールブック 25-2-1 |
| | 19 | A1がコート上を走っているA2に向かってパスを行い、走っているA2は右足がフロアについた状態でボールをコントロールした。その時目の前に突然B4が現れたのでA2は止まらずにボールを持ったまま左足でステップを踏み、右足をフロアから離れたタイミングでボールを手から離してドリブルを始めた。審判はA2がボールが手から離れる前にピボットフットをフロアから離れたので、トラベリングのバイオレーションを宣した。 | × | 第25条 トラベリング | B | ルールブック 25-2-1 |
| | 20 | ドリブルをしているA4はショットのために、右足がフロアに触れている状態でボールを両手で掴みそのまま右足で踏み切り、右足で着地、次に左足でステップを踏んでショットを放った。審判はA4が連続して同じ片足をフロアに触れさせたので、トラベリングのバイオレーションを宣した。 | ○ | 第25条 トラベリング | C | ルールブック 25-2-1 |
| | 21 | A1が、ボールを持ったままフロアに倒れ、その勢いでフロアを滑った。審判はA1がディフェンスを避けるためにフロアを転がったりした訳ではないと判断し、バイオレーションを吹かなかった。 | ○ | 第25条 トラベリング | C | インプリ 25-4 |
| | 22 | A1がバスケットに向かってベネトレイトをしながらボールを両手で持ち、ツーポイントのショットの動作に入った。そのひと続きの動作の中でB1にファウルをされ、そのあとトラベリングのバイオレーションをしたが、ボールはバスケットに入った。審判は得点を認め、A1に1本のフリースローを与えてゲームを再開した。 | × | 第25条 トラベリング | B | インプリ 25-6 |
| | 23 | A5が制限区域内で2秒間ボールをもらおうとポジションを占めていたが、ボールはA5にパスされなかった。その時ボールをコントロールしていたA2はスリーポイントショットを放った。A2の放ったショットはリングに当たらず、そのボールを制限区域から一度も出ていないA5が直接リバウンドしてショットを放とうとしていた。その時点でA5は制限区域内に4秒間とどまっていた。審判はA5に、3秒のバイオレーションを宣した。 | × | 第26条 3秒ルール | A | ルールブック 26-1-2 |

【Q4-Q9】
第5章
バイオレーション

| | | | | | |
|----|---|---|----------------------|---|---------------|
| 24 | A5が制限区域内で2秒間ボールをもらおうとポジションを占めていたがボールはA5にパスされなかった。A5はこれ以上制限区域内にとどまると3秒のバイオレーションを宣せられると思ったので、左足を制限区域外のフロアにつけて、右足を制限区域内のフロアから離し空中に一度上げてから再び制限区域内でポジションを占めた。審判はA5が一度制限区域内から出たので、3秒のバイオレーションではないと判断しプレーを継続させた。 | × | 第26条 3秒ルール | B | ルールブック 26-1-3 |
| 25 | コート上でドリブルをしながらその場で止まっているA2が5秒間、パスもショットもせずに、B3に1m以内の距離で正当な位置で積極的にガードされていた。審判はバイオレーションではないと判断しプレーを継続させた。 | ○ | 第27条 近接してガードされたプレーヤー | C | ルールブック 27-2 |
| 26 | A1がバックコートで5秒間ライブのボールをコントロールしたあと、B2との間でヘルドボールが起き、オルタネイティングポゼッションのスローインがチームAのバックコートで与えられた。チームAは3秒でボールをフロントコートに進めなければならない。 | ○ | 第28条 8秒ルール | D | インプリ 28-2 |
| 27 | A1がセンターラインをまたいで立っていた(右足がフロントコート、左足がバックコート)とき、バックコートで6秒間ライブのボールをコントロールしていたA2からパスを受けた。A1はそのまま3秒間その場にとどまった。審判は右足がフロントコートに触れているA1がボールをコントロールし、すでにフロントコートにボールが進められたと判断したため、8秒のバイオレーションではないと判断しプレーを継続させた。 | × | 第28条 8秒ルール | B | ルールブック 28-1-2 |
| 28 | A1がバックコートからドリブルをしてボールを進めていたが、センターラインをまたいで(右足がフロントコート、左足がバックコート)状態でドリブルを終えて止まった。その後A1は同様にセンターラインをまたいで(右足がフロントコート、左足がバックコート)いるA2にボールをパスした。ボールを受けたA2は右足をバックコートに戻しその後バックコートでドリブルを始めた。その時点でA1がバックコート内でライブのボールをコントロールしてから8秒が経過していた。審判はチームAは8秒以内にボールをフロントコートに進めることができていると判断したので、8秒のバイオレーションを宣した。 | ○ | 第28条 8秒ルール | B | インプリ 28-6 |
| 29 | A2がバックコートでライブのボールをコントロールしているときに、フロントコートにいるA4に向かってパスを行なった。そのフロントコートへのパスの途中で、ボールが空中にあった時に、センターラインをまたいだ状態で止まっているB2によって正当にはじき出され、ボールはチームAのバックコートでアウトオブバウンズとなった。その時点でA2がバックコート内でライブのボールをコントロールしてから5秒が経過していた。審判はバックコートからスローインをするA2にボールを与える際に、あと3秒でボールをフロントコートに進めるように伝えた。 | × | 第28条 8秒ルール | A | ルールブック 28-1-2 |
| 30 | A2がバックコートでライブのボールをコントロールしているときに、フロントコートにいるA4に向かってパスを行なった。そのフロントコートへのパスの途中で、ボールが空中にあった時に8秒が経過してチームAに8秒のバイオレーションが宣せられた。審判はバックボードの真後ろを除いた8秒のバイオレーションが起こった場所に最も近い位置からチームBにスローインを与えゲーム再開させた。 | × | 第28条 8秒ルール | C | インプリ 28-14 |
| 31 | A1のショットが空中にあるときにショットクロックのブザーが鳴った。ボールはバックボードに当たりフロアに落ち、B1が触った後A2が触れて、最終的にB2によってコントロールされた。審判は最終的にB2がボールをコントロールできたので、ショットクロックのブザーは無視してゲームを続行させた。 | × | 第29条 24秒ルール | C | インプリ 29/50-2 |
| 32 | ショットクロックが終了する間に、A1のパスをA2がキャッチできず(2人ともフロントコートにいる)ボールがチームAのバックコートに転がった。B1がバスケットまで誰もいない状況でボールをコントロールしようとするときに、ショットクロックのブザーが鳴った。審判は速やかかつ明らかにB1がボールをコントロールできたので、ショットクロックのブザーは無視してゲームを続行させた。 | ○ | 第29条 24秒ルール | C | インプリ 29/50-8 |
| 33 | ショットクロックが終了する間にA1がショットを放った。ボールはB1によって正当にブロックされたあと、ショットクロックのブザーが鳴った。ブザーのあと、B1がA1にファウルをした。これはA1のツーポイントを狙ったジャンプショット中に、B1がショットを正当にブロックしたあとに、勢い余ってA1がまだ空中にいる間に、B1が起こした不当な体の触れ合いに対するファウルだった。審判はこのファウルはパーソナルファウルで、ショットの動作中のファウルと判断した為、B1にプッシングのファウルを宣し、A1に2本フリースローを与えてゲームを再開させた。 | × | 第29条 24秒ルール | B | インプリ 29/50-4 |
| 34 | A1がショットを放った。ボールが空中にあるときにショットクロックのブザーが鳴り、B2がA2にファウルをした。そしてボールはリングに当たらなかった。これはチームBのそのピリオド5個目のチームファウルだった。審判はこのファウルはパーソナルファウルで、B2にプッシングのファウルを宣し、A2に2本フリースローを与えてゲームを再開させた。 | ○ | 第29条 24秒ルール | C | インプリ 29/50-32 |
| 35 | ショットクロックが4秒のとき、A1がショットクロックをリセットするためにボールをリングに向かって投げた。ボールはリングに当たり、B1がそのボールに触れチームAのバックコートでアウトオブバウンズになった。審判はチームAのバックコートからのスローインであった為、ショットクロックを新たに24秒にしてゲームを再開させた。 | × | 第29条 24秒ルール | C | インプリ 29/50-38 |
| 36 | A1がショットを放ち、ボールがリングに当たった。A2がフロントコートでボールリバウンドしようとしたがコントロールできず、ボールをはじき、その後バックコートで正当にA3によってコントロールされた。審判はA3がバックコートでボールをコントロールしたのでショットクロックを新たに24秒にしてゲームを再開させた。 | × | 第29条 24秒ルール | C | インプリ 29/50-39 |
| 37 | ショットクロック残り6秒でA1がショットを放った。ボールがリングに当たり、リバウンドのボールをA2がバックコートでコントロールした。その後A2はB1にファウルをされた。これはチームBのそのピリオド3個目のチームファウルだった。ゲームはチームAのバックコートからのスローインによって再開となり、ショットクロックは14秒にリセットされる。 | × | 第29条 24秒ルール | C | インプリ 29/50-46 |
| 38 | 第2クォーター、ゲームクロック残り25.2秒、ショットクロック残り24秒の状態、チームAがライブのボールをコントロールした。その後ショットクロック残り1秒でA1がショットを放った。ボールが空中にあるときショットクロックのブザーが鳴った。ボールはリングに当たらず、チームBが速やかかつ明らかにコントロールを得られなかった。審判は笛を吹いてショットクロックのバイオレーションを宣した。その時点でゲームクロックは残り0.8秒を表示していた。審判はエンドラインからチームBにスローインを与え、ゲームクロックは残り0.8秒から再開させた。 | ○ | 第29条 24秒ルール | B | インプリ 29/50-63 |
| 39 | 第2クォーター、ゲームクロック残り25.2秒、ショットクロック残り24秒の状態、チームAがライブのボールをコントロールした。その後チームAは一度もショットすることができず、A1がボールを手の手に持っているときにショットクロックのブザーが鳴った。審判は笛を吹いてショットクロックのバイオレーションを宣した。その時点でゲームクロックは残り0.8秒を表示していた。審判はバイオレーションでゲームが止められた場所に最も近い位置からチームBにスローインを与え、ゲームクロックは残り0.8秒から再開させた。 | × | 第29条 24秒ルール | B | インプリ 29/50-64 |

| | | | | | |
|----|---|---|-----------------------------|---|------------------------|
| 40 | バックコートでライブのボールをコントロールしているA1が、両足がフロントコートに触れているA2に向かってボールをパスをした。A2はボールに触れたがファンブルしてしまい、ボールをコントロールできなかった。その後、ボールはチームAのバックコートに戻り、バックコートにいたA1がボールをコントロールした。審判はチームAがボールを不当にバックコートに戻したと判断して、バイオレーションを宣した。 | × | 第30条 ボールをバックコートに戻すこと | C | インプリ 30-14 |
| 41 | フロントコートでライブのボールをコントロールしているA1が、A2にアリウープパスをした。A2はボールに触れることができず、ボールはそのままリングに当たった。その後、ボールはチームAのバックコートに戻り、バックコートにいたA3がボールをコントロールした。審判はチームAがボールを不当にバックコートに戻したと判断して、バイオレーションを宣した。 | ○ | 第30条 ボールをバックコートに戻すこと | C | インプリ 29/50-44 |
| 42 | チームAのバックコートでライブのボールをコントロールしているA1が、両足がフロントコートに触れているA2に向かってボールをパスをした。B1はチームBのフロントコートからジャンプをして空中にいる間にボールをキャッチし、センターラインをまたいで着地して、その後チームBのバックコートでドリブルをした。審判はB1は正当にバックコートにいると判断して、プレーを続行させた。 | ○ | 第30条 ボールをバックコートに戻すこと | B | インプリ 30-2 |
| 43 | チームAのバックコートでライブのボールをコントロールしているA1が、両足がフロントコートに触れているA2に向かってボールをパスをした。A2はチームAのフロントコートからジャンプをして空中にいる間にボールをキャッチし、センターラインをまたいで着地して、その後チームAのバックコートでドリブルをした。審判はA2は正当にバックコートにいると判断して、プレーを続行させた。 | × | 第30条 ボールをバックコートに戻すこと | B | インプリ 30-17 |
| 44 | チームAのバックコートからスローインを行うA1が、両足がフロントコートに触れているA2に向かってボールをパスをした。B1はチームBのフロントコートからジャンプをして空中にいる間にボールをキャッチし、チームBのバックコートに着地する前に、チームBのバックコートにいるB2にパスをした。審判はB1は正当にボールをバックコートに戻したと判断して、プレーを続行させた。 | × | 第30条 ボールをバックコートに戻すこと | B | インプリ 30-6 |
| 45 | B3がA1に対してファウルをして、A1に2本のフリースローが与えられた。A1が2本目のフリースローをシュートして、ボール全体がリングの高さより上にあり、バスケットに向かって落ち始めているボールがリングに触れる前に、フリースローのリバウンドの位置を占めていたB2がボールに触れた。審判はB2に対してゴールテンディングのバイオレーションを宣し、A1に1点を与えた。 | × | 第31条 ゴールテンディングとインタフェアレンス | C | ルール31-2-2 ルール31-3-3 |
| 46 | B3がA1に対してファウルをして、A1に2本のフリースローが与えられた。A1の2本目のフリースローがリングに触れ、ボールがリングより上に弾んだ。その時、B1はそのボールがリングに入らないようにブロックを試みてボールに触れたが、ボールはバスケットに入った。審判はB1が正当にボールに触れてボールがバスケットに入ったので、インタフェアレンスのバイオレーションではないと判断して、プレーを続行させ、A1の得点を認め、チームAに1点を与えた。 | × | 第31条 ゴールテンディングとインタフェアレンス | B | インプリ 31-6 |
| 47 | A1がツーポイントシュートを放ち、ボールがリングに触れてリングの上で弾み、まだバスケットに入る可能性があるときにゲームクロックのブザーが鳴り、その後ボールにB2が触れた。審判はB2に対してインタフェアレンスのバイオレーションを宣し、A1に2点を与えた。 | ○ | 第31条 ゴールテンディングとインタフェアレンス | C | インプリ 31-10 |
| 48 | A1がスリーポイントシュートを放った。ボールがバスケットに当たり跳ね返ったときにA2がリングをやむを得ず瞬間的に掴み、ボールをタップしてバスケットに入れた。審判は得点を取り消し、A2に対してテクニカルファウルを宣した。 | × | 第31条 ゴールテンディングとインタフェアレンス | C | インプリ 31-19 |
| 49 | プレーヤーがコート上で普通に立ったとき、そのプレーヤーが占めている位置とその真上の空間をシリンダー（筒）という。その範囲は、正面は手のひらの位置まで、背面は尻の位置まで、側面は腕と脚の外側の位置までである。手や腕を前に伸ばしてもいいが、足の位置を超えてはならない。手を肘の位置で曲げてもいいが、前腕と手は挙げなくてはならない。両足の間隔はプレーヤーの身長を考慮せず1mとする。 | × | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | D | ルールブック 33-1 |
| 50 | ディフェンスのプレーヤーは、相手チームのプレーヤーに正対し、両足をフロアにつけたとき、リーガルガーディングポジションを占めたときみなされる。 | ○ | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | D | ルールブック 33-3 |
| 51 | ディフェンスのプレーヤーは、ボールをコントロールしているプレーヤーをガードするときは相手の速さと距離を十分に考慮して位置を占めなければならない。動いている相手チームのプレーヤーが止まったり方向を変えたりして触れ合いを避けることができないほど、急にまた近くに位置を占めてはならない。 | × | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | D | ルールブック 33-4 |
| 52 | 一度リーガルガーディングポジションを占めたディフェンスのプレーヤーは、相手チームのプレーヤーをガードするために位置を変えてもいいが、腕を広げたり、肩、腰、脚などを使ったりして脇を通るプレーヤーを妨げてはならない。リーガルガーディングポジションを占めたディフェンスのプレーヤーは怪我を避けるためであっても、シリンダー内で体を回転させてはならない。 | × | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | D | ルールブック 33-5 |
| 53 | A3がジャンプシュートを放ち、元の位置と違うところに下りた勢いで、すでに近くにリーガルガーディングポジションを占めていたB2のプレーヤーと触れ合いを起こした。審判はB2に触れ合いの責任があると判断して、B2にファウルを宣した。 | × | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | C | ルールブック 33-6 |
| 54 | 動いている相手チームのプレーヤーの視野の中でスクリーンをかけるプレーヤーは、触れ合いを起こさない限り、相手の近くに位置を占めてよい。 | × | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | C | ルールブック 33-7 |
| 55 | A1がエンドライン沿いをドリブルしており、バックボードの裏側のエリアからジャンプをして、セミサークルエリアに触れてリーガルガーディングポジションを占めているB1にぶつかった。審判はノーチャージセミサークルルールは適用せずに、A1にチャージングのファウルを宣した。 | ○ | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | C | インプリ 33-3 |
| 56 | A3が放ったシュートがリングに触れリバウンドになった。A1がジャンプをしてボールをキャッチしたあと、セミサークルエリアに触れてリーガルガーディングポジションを占めているB1にぶつかった。審判はノーチャージセミサークルルールは適用せずに、A1にチャージングのファウルを宣した。 | ○ | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | C | インプリ 33-4 |
| 57 | A1がバスケットに向かってドライブし、シュートの動作を起こした。シュートをするのをやめてA1の真後ろにいるA2にボールをパスした。A1はノーチャージセミサークルエリアに触れているB1にぶつかった。同時にA2は、シュートをするために直接バスケットに向かってドライブをした。審判はノーチャージセミサークルルールは適用せずに、A1にチャージングのファウルを宣した。 | ○ | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | C | インプリ 33-5 |
| 58 | A1がバスケットに向かってドライブし、シュートの動作を起こした。空中にいる間に、シュートをするのをやめてコーナーに立っているA2にボールをパスした。A1はノーチャージセミサークルエリアに触れているB1にぶつかった。審判はノーチャージセミサークルルールは適用せずに、A1にチャージングのファウルを宣した。 | × | 第33条 コンタクト（体の触れ合い）： 基本概念 | C | インプリ 33-6 |
| 59 | チームAは3個、チームBは3個のチームファウルであるとき、A2がボールをコントロールしているときに、A4に向かってパスを行なった。そのパスの途中で、ボールが空中にあった時に、A4とB5がほとんど同時に互いにパーソナルファウルをした。審判は両プレーヤーにパーソナルファウルを記録し、どちらのチームにもフリースローを与えず、ジャンプボールシチュエーションでゲームを再開した。 | × | 第35条 ダブルファウル | C | ルールブック 35-2 |

【Q10-Q15】
第6章
ファウル

| | | | | | |
|----|--|---|----------------------|---|---|
| 60 | チームAは3個、チームBは3個のチームファウルであるとき、A2がツーポイントを狙ってシュートを放った。A2のシュートのボールが空中にあったときに、A4とB5がほとんど同時に互いにパーソナルファウルをした。その後ボールはリングに当たらず直接フロアに触れた。審判は両プレイヤーにパーソナルファウルを記録し、どちらのチームにもフリースローを与えず、ジャンプボールシチュエーションでゲームを再開した。 | ○ | 第35条 ダブルファウル | C | ルールブック 35-2 |
| 61 | テクニカルファウルを2個あるいはアンスポーツマンライクファウルを2個記録されたプレイヤーは失格・退場になる。したがって、テクニカルファウルとアンスポーツマンライクファウルを1個ずつ記録されたプレイヤーは失格・退場にならない。 | × | 第36条 テクニカルファウル | C | ルールブック 36-2-3 |
| 62 | ゲーム中、コートにチームAのプレイヤーが6人以上出ていることに審判が気づいた。チームAがボールをコントロールしていたのでゲームを速やかに止め、不当に出場していた6人目のプレイヤーをベンチに戻した。審判は、チームAのコーチが、交代が正しく行われ、交代されたプレイヤーが速やかにコートから退いたかを確認する責任を怠ったと判断して、チームAのコーチにテクニカルファウルを与え「C1」と記録した。 | × | 第36条 テクニカルファウル | C | インプリ 36-5、36-6 |
| 63 | 3Q 3:30に審判がA1に対してパーソナルファウルを宣した。これはA1の5個目のファウルであり失格になったことを宣せられた。そのあと交代が正しく行われ、A1はコートから退いてチームベンチに戻った。しかし、4Q 9:40にA1は交代をしてゲームに戻り、審判がドリブル中のA1に対してのパーソナルファウルをB1に宣したときに、審判は不当な出場に気がついた。これはチームBの5個目のチームファウルであった。審判は不当に出場していたA1に対するファウルであった為、B1のファウルを取り消し、A1を速やかにベンチに戻して、チームBにスローインを与えてゲームを再開させた。 | × | 第36条 テクニカルファウル | B | インプリ 36-12 |
| 64 | A6がスコアラーに対して交代を申請した。その後A1のファウルによりボールがデッドになり、審判はA1とA6の交代を認めA6をコートに招き入れた。このファウルはA1の5個目のファウルであった。しかし、審判はA1にそのファウルが5個目のファウルであり失格だということを宣さなかった。A1はその後交代してゲームに出場し、A1がシュートを成功させたときに、審判は不当な出場に気がついた。審判は5個目のファウルにより失格となるべきA1に対して、その事実を宣していなかったため、A1の得点を認め、A1を速やかにベンチに戻し、その不当な出場に対する罰則は与えずゲームを再開させた。 | ○ | 第36条 テクニカルファウル | B | インプリ 36-13、36-14 |
| 65 | A1がドリブルし、B1がディフェンスをしている。A1があたかもB1にファウルをされたかのような印象を与えるように頭部を動かした。審判はA1に「レイズザローアーム」のシグナルを2回示しフェイクに対して警告を与えた。その後一度もゲームが止まらずに、A1はさらにあたかもB1に押されたかのような印象を与えるようにフロアに倒れた。審判はさらにA1に「レイズザローアーム」のシグナルを2回示し、フェイクに対して警告を与えた。次にゲームが止まったときにA1とチームAのコーチに警告を与えた。 | × | 第36条 テクニカルファウル | B | インプリ 36-17 |
| 66 | B3は第1クォーターに判定に対する不満表現でテクニカルファウルを宣せられた。その後、第4クォーターに5個目のファウルを宣せられ、失格になった。これはチームBの2個目のチームファウルであった。B3はチームベンチに向かう間に、審判に対して暴言を吐き、審判はテクニカルファウルを宣した。審判はB3が5個目のファウルを宣せられた時点で失格していることから、このテクニカルファウルはチームBのコーチに「B1」と記録し、B3は退場とはせずチームベンチに留まることを許した。 | ○ | 第36条 テクニカルファウル | B | インプリ 36-25、36-26 |
| 67 | 第3クォーター終了間際に、コート上でプレーをしているA1と、チームBのベンチエリアにいる5個のファウルを宣せられたB9との間で会話が始まった。それは次第にエスカレートして、第3クォーターが終了したインターバル中には、お互いが敬意を欠く言動、異論表現となった為、審判はインターバル中に両者に対してテクニカルファウルを宣した。審判はこのテクニカルファウルは第4クォーターに起きたものとして、A1とB9に、それぞれインターバル中である事からプレイヤーとして1個ずつのテクニカルファウルを記録、それぞれのチームに1個ずつチームファウルを加算し、テクニカルファウルの罰則に含まれるフリースローは相殺し、第4クォーターは通常通りオルタネイティングポゼッションによるスローインでゲームを再開させた。 | × | 第36条 テクニカルファウル | A | ルールブック 36-3-1 補足：4-1-3、4-1-4、B-8-3-9 |
| 68 | 審判は、プレイヤーの心情をよく理解し、それが故意であったどうかを基準として、ゲームをとおして一貫性を持ってアンスポーツマンライクファウルの判断を行わなければならない。 | × | 第37条 アンスポーツマンライクファウル | C | ルールブック 37-1-2 |
| 69 | 第4クォーター残り1:02、A 83 - B 80、チームBは3個のチームファウルであるとき、A1がコート上のA3に対してパスをしようとしており、スローインのボールがA1の手を離れた。そのときスローインのボールを受け取ろうとしたA3とは全く別の場所で、全くボールを受け取ろうとせず、止まっているA2に対してB2が触れ合いを起こし、B2にファウルが宣せられた。審判はB2のファウルは激しい触れ合いではなかったため、B2にパーソナルファウルを宣し、ファウルの場所から最も近い位置からチームAのスローインでゲームを再開させた。 | × | 第37条 アンスポーツマンライクファウル | B | インプリ 37-7 |
| 70 | プレイヤーがボールにプレーしようと正当に努力していたとしても、過度に激しい触れ合い（エクセシブコンタクト、ハードコンタクト）であった場合はアンスポーツマンライクファウルである。 | ○ | 第37条 アンスポーツマンライクファウル | C | ルール 37-1-1 |
| 71 | A1に対してB2が起こした触れ合いは、ボールに対するプレーではなく、かつ、正当なバスケットボールのプレーとは認められないプレーであったが、A1はすでにシュートの動作に入っており、一連の動作でシュートを完了させてツーポイントシュートを成功させた。審判はB2に対してアンスポーツマンライクファウルではなく、パーソナルファウルを宣し、A1の2点を認め、さらに通常通りのリバウンダーありの状態ですべてのフリースローを与え、ゲームを再開させた。 | × | 第37条 アンスポーツマンライクファウル | B | ルールブック 37-1-1 インプリ 37-8 |
| 72 | 速攻に出ているオフENSEのプレイヤーとそのチームが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレイヤーが全くいない状態で、その速攻を止めるためにディフェンスのプレイヤーが、そのオフENSEのプレイヤーの後ろあるいは横から起こす触れ合いであった場合はアンスポーツマンライクファウルである。 | ○ | 第37条 アンスポーツマンライクファウル | C | ルールブック 37-1-1 |
| 73 | 速攻に出ているA1が、チームAが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレイヤーが全くいない状態で、速攻の終わりにA1がシュートの動作に入るためにボールを持った後、B1がA1の後ろからボールをスティールしようとした結果、A1の手に対して触れ合いを起こした。審判はA1は既にシュート動作に入っていたが、B2の触れ合いが、速攻に出ているオフENSEのプレイヤーとそのチームが攻めるバスケットの間にディフェンスのプレイヤーが全くいない状態で、その速攻を止めるためにディフェンスのプレイヤーが、そのオフENSEのプレイヤーの後ろあるいは横から起こす触れ合いだと判断し、アンスポーツマンライクファウルを宣した。 | × | 第37条 アンスポーツマンライクファウル | C | ルールブック 37-1-1 |
| 74 | オフENSEが進行する中で、その進行を妨げることを目的としたディフェンスのプレイヤーによる必要のない触れ合いがあった場合はアンスポーツマンライクファウルである。このルールはオフENSEのプレイヤーがシュートの動作に入るまで適用される。 | ○ | 第37条 アンスポーツマンライクファウル | C | ルールブック 37-1-1 |
| 75 | 体の触れ合いをともなわないディスクォリファイングファウルが宣せられた場合のフリースローシューターは、コーチが指定する。 | ○ | 第38条 ディスクォリファイングファウル | C | ルールブック 38-3-3 |

| | | | | | | |
|------------------------|----|--|---|----------------------|---|---------------|
| | 76 | A1が著しくスポーツマンらしくない行為により失格・退場になった。コートから離れたときに審判を侮辱する発言を行った。A1はすでに失格・退場になっており、審判を侮辱する発言による罰則は受けない。審判または同席していればコミッショナーは、大会主催者に対して報告書を提出しなければならない。 | ○ | 第38条 ディスクォリファイングファウル | C | インプリ 38-2 |
| | 77 | 第3クォーターで、コート上にいるA1がA2を殴った。審判は直ちに仲裁に入り暴力行為を止めたが、味方同士の暴力行為であったためA1とチームAのコーチに警告を与えゲームを再開した。 | × | 第38条 ディスクォリファイングファウル | B | インプリ 38-8 |
| | 78 | ファイティングとは、プレーヤー、交代要員、コーチ、アシスタントコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者の間で発生する暴力行為のことをいい、この規定は、コート上やコートの周囲でファイティングが起こったときや起こりそうなきに、チームベンチエリアから出た交代要員、コーチ、アシスタントコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者に適用される。 | ○ | 第39条 ファイティング | C | ルールブック 39-1 |
| | 79 | 交代要員、コーチ、アシスタントコーチ、5個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者は、審判に協力して争いを止めるためであれば、ファイティングが起こったときや起こりそうなきでもチームベンチエリアから出てよい。この場合は、失格・退場にはならない。しかし、チームベンチエリアから出てコートに入ったのに争いを止めようとしなかったときは、失格・退場になる。 | × | 第39条 ファイティング | C | ルールブック 39-2-2 |
| | 80 | ファイティングの規定によるディスクォリファイングファウルは、チームファウルに数える。 | × | 第39条 ファイティング | C | ルールブック 39-3-3 |
| | 81 | ファイティングシチュエーションで、交代要員であるA6がコートに入ったため、失格・退場になった。コーチAのテクニカルファウルとして「B2」と記録される。リバウンダーなしで2本のフリースローがチームBに与えられる。フロントコートのスローインラインからチームBのスローインでゲームが再開される。ショットクロックは14秒にリセットされる。 | ○ | 第39条 ファイティング | C | インプリ 39-4 |
| 【Q16-Q19】 第7章 総則 | 82 | すでに5個のファウルを宣せられたプレーヤーによるファウルは、プレーをする資格を失ったプレーヤーのファウルとしてコーチに宣せられ、スコアシートのコーチ欄には「B」と記録する。 | ○ | 第40条 プレーヤーの5個のファウル | B | ルールブック 40-2 |
| | 83 | チームファウルに数えるファウルとは、プレーヤーに記録されるパーソナルファウル、テクニカルファウル、アンスポーツマンライクファウル、ディスクォリファイングファウル、コーチ自身に宣せられるテクニカルファウル、ディスクォリファイングファウルをいい、コーチ以外のチームベンチパーソネルに記録されるファウルはチームファウルに数えない。 | × | 第41条 チームファウル：罰則 | C | ルールブック 41-1-1 |
| | 84 | ボールをコントロールしているチームがファウルをして、チームファウルのペナルティシチュエーションであるときには、相手チームに2本のフリースローが与えられる。 | × | 第41条 チームファウル：罰則 | B | ルールブック 41-2-2 |
| | 85 | A1がジャンプショットを放ち、ボールが空中にある間に、ショットクロックのブザーが鳴った。そのブザーのあとA1がまだ空中にいる間に、B1がA1にアンスポーツマンライクファウルをし、ボールはリングに当たらなかった。アンスポーツマンライクファウルがB1に記録され、フリースローののち、センターラインの延長線上からチームAのスローインでゲームが再開される。 | × | 第42条 特別な処置をする場合 | B | インプリ 42-2 |
| | 86 | A1はショットの動作中にB2からファウルをされた。同じショットの動作中にB1からもファウルをされた。B1のファウルはアンスポーツマンライクファウルまたはディスクォリファイングファウルではなかったため、なかったものとみなした。 | ○ | 第42条 特別な処置をする場合 | B | インプリ 42-3 |
| | 87 | 両チームに記録された罰則が等しく、全て相殺された時に、どちらのチームもボールをコントロールしておらずボールを与えられることになっていなかった場合は、ジャンプボールシチュエーションでゲームを再開する。 | ○ | 第42条 特別な処置をする場合 | B | ルールブック 42-2-8 |
| | 88 | B1がA1に対してアンスポーツマンライクファウルをした。そのファウルのあと、コーチAとコーチBにそれぞれテクニカルファウルが宣せられた。ゲームはA1の2本のフリースローとチームAのスローインで再開される。 | ○ | 第42条 特別な処置をする場合 | B | ルールブック 42-2-8 |
| | 89 | 特別な処置をする場合、全てのファウルと罰則は記録され、両チームに記録された全ての等しい罰則やダブルファウルの罰則は、起きた順序に従って相殺される。一度相殺したり取り消した罰則は適用されない。 | ○ | 第42条 特別な処置をする場合 | C | ルールブック 42-2-1 |
| | 90 | B1がA1に対してアンスポーツマンライクファウルをし、A1のショットは成功した。その後A1がテクニカルファウルを宣せられた。A1の得点は認められるがフリースローは相殺されるため、チームAのスローインでゲームが再開される。 | × | 第42条 特別な処置をする場合 | B | インプリ 42-6 |
| | 91 | ポジション争いにおいてB1がA1を押しおのけ、パーソナルファウルを宣せられた。これはチームBの3個目のチームファウルであった。その後（ほとんど同時ではなく）A1がB1に肘打ちをし、アンスポーツマンライクファウルを宣せられた。ゲームはB1による2本のフリースローと、チームBのスローインによって再開される。 | ○ | 第42条 特別な処置をする場合 | C | インプリ 42-7 |
| | 92 | B1はドリブルをしているA1に対してファウルをした。このファウルはチームBの5個目のチームファウルであった。そのあと、A1が至近距離にいるB1の頭にボールをぶつけたため、A1にディスクォリファイングファウルが宣せられた。等しい罰則は起きた順序で相殺され、チームBのスローインでゲームが再開される。 | × | 第42条 特別な処置をする場合 | B | インプリ 42-9 |
| | 93 | A1が2本のフリースローを与えられ両方のフリースローを決めた。2本目のフリースローが成功したあとボールがライブになる前に、A2とB2にそれぞれテクニカルファウルが宣せられた。それぞれのファウルはA2とB2に記録され、ゲームはエンドラインから通常のフリースローが成功した後と同様のスローインで再開される。 | ○ | 第42条 特別な処置をする場合 | B | インプリ 42-16 |
| | 94 | 第1ピリオドと第2ピリオドの間のインターバル中に、A1とB1がそれぞれディスクォリファイングファウルをした。オルタネイティングポゼッションアローはチームAを示していた。ゲームはスコアラズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上からチームAのスローインで再開される。ボールがコート上のプレーヤーに触れるあるいは触れられた時点でオルタネイティングポゼッションアローは逆向きになりチームBを示す。 | ○ | 第42条 特別な処置をする場合 | B | インプリ 42-20 |
| | 95 | 体の触れ合いを伴ったディスクォリファイングファウルが宣せられた場合は、チームのコーチが指定するプレーヤーがフリースローシューターになる。 | × | 第43条 フリースロー | B | ルールブック 43-2-1 |
| | 96 | ファウルをされたプレーヤーが、怪我、5回のファウルあるいは失格・退場によりゲームを離れなければならない場合は、そのプレーヤーと交代したプレーヤーがフリースローシューターになる。交代できるプレーヤーがいない場合は、そのときのコート上のキャプテンがフリースローシューターになる。 | × | 第43条 フリースロー | B | ルールブック 43-2-1 |

| | | | | | | |
|---|-----|--|---|-----------------------------|---|---------------|
| | 97 | 最後のフリースローが成功したが、両チームのプレイヤーにフリースローのショットが放たれる前に制限区域に入るバイオレーションを起こせば、フリースローの得点を認めた上で、ジャンプボールシチュエーションでゲームを再開する。 | × | 第43条 フリースロー | C | ルールブック 43-3-2 |
| | 98 | 最後のフリースローの際に、フリースローシューターにバイオレーションがあった場合、フリースローの得点は認められず、それに続くポゼッションが与えられることになっていた場合を除き、ボールは相手チームに与えられ、エンドラインのアウトからのスローインでゲームは再開される。 | × | 第43条 フリースロー | C | ルールブック 43-3-3 |
| | 99 | 誤りに気がつき、審判がゲームを止める前に起きたファウルは、本来起きるべきものではなかったため、無効となり取り消される。 | × | 第44条 訂正できる誤り | C | ルールブック 44-2-3 |
| | 100 | B1がA1にファウルをした。このファウルはチームBの4個目のチームファウルであった。審判は誤ってA1に2本のフリースローを与えた。最後のフリースローが成功したあとでゲームクロックが動き出し、B2がボールを受け取りドリブルをして得点を決めた。チームAのプレイヤーがエンドラインでボールを掴んだ後、審判が誤りに気がついたが、既に誤りを訂正できる時期を過ぎているため、ゲームはそのまま再開される。 | ○ | 第44条 訂正できる誤り | B | インプリ 44-2 |
| | 101 | B1がA1にファウルをし2本のフリースローが与えられた。1本目のフリースローが成功した後B2は誤ってボールをとり、エンドラインからスローインをした。ショットクロックが残り18秒を示し、B3がフロントコートでドリブルをしているとき、A1の2本目のフリースローが与えられていないことに気がついた。ゲームは速やかに止められ、A1に2本目のフリースローが与えられ、通常のフリースローの後と同様に再開される。 | × | 第44条 訂正できる誤り | B | インプリ 44-3 |
| | 102 | B1がA1にファウルをし、そのファウルはチームBの6個目のチームファウルだった。A1に2本のフリースローが与えられた。フリースローを打とうとしたのはA1ではなくA2であり、審判はA2がシュートを打つ前にその誤りに気がついた。フリースローは取り消され、チームBのスローインからゲームは再開される。 | × | 第44条 訂正できる誤り | B | インプリ 44-5 |
| | 103 | B1がA1にファウルをし、そのファウルはチームBの5個目のチームファウルだった。A1に2本のフリースローを与えられるはずが、誤ってスローインが与えられた。その後A2がコート上でドリブルをしているときにB2がボールをはじきアウトオブバウンズになった。コーチAがタイムアウトを請求し、タイムアウト中に、A1に2本のフリースローを与えなければならなかったことに審判が気がついた。審判はタイムアウトが終わったあとでA1に2本のフリースローを与え、訂正のために中断した場所から最も近いアウトオブバウンズでチームBのスローインからゲームを再開する。 | × | 第44条 訂正できる誤り | A | インプリ 44-9 |
| | 104 | B1がA1にファウルをし、そのファウルはチームBの5個目のチームファウルだった。A1に2本のフリースローを与えられるはずが、誤ってスローインが与えられた。スローインのあと、ショットは決まらなかったが、A2はショット中にB1からファウルをされ、2本のフリースローが与えられた。コーチAがタイムアウトを請求した。タイムアウト中に、A1に2本のフリースローを与えなければならなかったことに審判が気がついた。訂正はすでにできないため、審判はA2に2本のフリースローを与え、通常のフリースローの後と同様にゲームを再開した。 | × | 第44条 訂正できる誤り | A | インプリ 44-10 |
| | 105 | B1がA1にファウルをし、そのファウルがチームBの5個目のチームファウルであった。A1に2本のフリースローが与えられるはずが、誤ってスローインが与えられた。スローインのあと、A2がシュートを成功させた。そのボールがライブになる前に、審判が処置の誤りに気がついた。A1にリバウンダーなしのフリースローが2本与えられ、チームBのエンドラインからのスローインでゲームを再開した。 | × | 第44条 訂正できる誤り | A | インプリ 44-12 |
| 【Q20-21】 第8章 審判、 テーブル オフィシャルズ、 コミッショナー ：任務と権限 | 106 | 審判、テーブルオフィシャルズ、コミッショナーは、競技規則に則りゲームを行い、規則の変更を承認する権限は持たない。 | ○ | 第45条 審判、テーブルオフィシャルズ、コミッショナー | C | ルールブック 45-5 |
| | 107 | ゲーム中にディスクリファイングファウルが起きた時には、クルーチーフは試合終了後にスコアシート裏面に記載をし、大会主催者に報告しなくてはならない。 | ○ | 第46条 クルーチーフ：任務と権限 | B | ルールブック 46-10 |
| | 108 | ゲーム終了を知らせるゲームクロックのブザーが鳴ったとき、A1がフィールドゴールを放ち成功した。コートにはゲーム開始前に認められたインスタントリプレーシステム（IRS）に関する機器は存在しなかったが、チームBのマネージャーが自チームのビデオカメラで撮影していた動画を提供し、確認した結果、明らかにA1のシュートが手から離れるより、ゲームクロックのブザーの方が早かったため、クルーチーフはA1の得点を認めなかった。 | × | 第46条 クルーチーフ：任務と権限 | C | インプリ 46-25 |
| | 109 | 審判の1人が怪我またはその他の理由で審判を続けられなくなり、その後5分を経過してもその審判が任務を遂行できない場合は、ゲームを再開する。怪我をした審判の代わりとなる審判がいない場合は、残りの審判だけでゲーム終了まで任務を遂行する。 | ○ | 第47条 審判：任務と権限 | C | ルールブック 47-5 |
| | 110 | 交代の合図を鳴らして審判に伝えるのはタイマーの任務である。 | × | 第48条 スコアラー、アシスタントスコアラー：任務 | C | ルールブック 48-2 |
| | 111 | スコアシートの記録の誤りがゲーム中に見つかった場合は、スコアラーは確認ができた段階で速やかにブザーを鳴らして審判に知らせる。 | × | 第48条 スコアラー、アシスタントスコアラー：任務 | D | ルールブック 48-4 |
| | 112 | チームAのコーチ自身にテクニカルファウルが宣せられ、チームBに1本のフリースローが与えられた。スコアシートのコーチ欄には「T」と記入する。 | × | 第48条 スコアラー、アシスタントスコアラー：任務 | C | ルールブック 補足B8-8 |
| | 113 | 第4クォーターでA1がフィールドゴールのショットが成功し、ボールがバスケットを完全に通り抜けたとき、ゲームクロックは残り2:03を表示していた。スローインのためにB1がボールに触れるまでの間にゲームクロックの表示が2:00となったので、タイマーはゲームクロックを止めた。 | × | 第49条 タイマー：任務 | A | ルールブック 49-2 |
| | 114 | チームAがフロントコートでスローインのボールを投げ入れた時に、チームBのプレイヤーがキックボールのバイオレーションをした。ゲームクロックは1秒進んでしまったので、審判は時間を正しく訂正してゲームを再開した。 | ○ | 第49条 タイマー：任務 | B | ルールブック 49-2 |
| | 115 | タイマーは第1クォーターと第3クォーターが始まる30秒前にブザーを鳴らす。 | × | 第49条 タイマー：任務 | C | ルールブック 49-4 |
| | 116 | チームAがフロントコートでボールをコントロールしているとき、A1の怪我で審判がゲームを止めた。このときショットクロックは残り10秒を表示していた。A1はA6と交代し、引き続きチームAのフロントコートからゲームが再開されることになったので、ショットクロックオペレーターはショットクロックの表示を14秒にリセットした。 | × | 第50条 ショットクロックオペレーター：任務 | C | ルールブック 50-2 |
| | 117 | ボールが正当にバスケットに入った時にはショットクロックを止めて24秒にリセットし、秒数は表示しない。 | ○ | 第50条 ショットクロックオペレーター：任務 | B | ルールブック 50-3 |

| | | | | | |
|-----|---|---|------------------------|---|---------------------|
| 118 | チームAのスローインでショットクロックは残り1秒を表示していた。スローインをするA1の手から離れたボールがチームBのプレーヤーの手に当たった。ゲームクロックは動き始めたが、ショットクロックはその後A2がボールを掴んでから動きだした。 | × | 第50条 ショットクロックオペレーター：任務 | C | ルールブック 50-1 |
| 119 | A1がショットしたボールがリングに触れたあと、どちらのチームもリバウンドのボールをコントロールしないうちにチームAのフロントコートでB2がA2にファウルをした。チームBのチームファウルは3個目であった。チームAにスローインのボールが与えられ、ショットクロックは14秒にリセットされる。 | ○ | 第50条 ショットクロックオペレーター：任務 | B | ルールブック 50-4 |
| 120 | ショットクロックのブザーが鳴った時に、チームがボールをコントロールしているときを除いて、ボールはデッドになる。 | × | 第50条 ショットクロックオペレーター：任務 | C | ルールブック 10-3、50-5 |
| 121 | 第4クォーター残り2:00でチームAにスローインが与えられたので、審判はイリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナルを使ってから、A1にスローインのボールを与えた。 | ○ | 第17条スローイン | D | ルールブック 17-3-3 |
| 122 | 第4クォーター残り1:47でチームBにスローインが与えられ、審判はイリーガルバウンダリーラインクロッシングシグナルを使ってからB2にスローインのボールを与えた。スローインの際にA1が境界線を越えて手を出し、スローインを妨げようとしたので、審判はA1のバイオレーションを宣し、B2にスローインのやり直しをさせた。 | × | 第17条スローイン | D | ルールブック 17-3-3 |
| 123 | ゲームの最後の1分、ショットクロックが残り17秒で、A1がバックコートでドリブルをしていたとき、チームBのプレーヤーがフリースローラインの延長線上でボールをアウトオブバウンズに叩き出し、そのあとチームAにタイムアウトが認められた。コーチAがフロントコートからのスローインを選択した場合、フロントコートのスローインラインからチームAのスローインでゲームが再開され、ショットクロックは継続となる。 | × | 第17条スローイン | C | インプリ 17-12 |
| 124 | 第4クォーターの残り1:24で、A1がフロントコートでドリブルをしているとき、B1がチームAのバックコートへボールをはじき出し、チームAのいずれかのプレーヤーが再びドリブルを始めた。チームAのバックコートでB2がアウトオブバウンズにボールをはじき出したとき、ショットクロックは残り6秒であった。チームAにタイムアウトが認められ、コーチAがフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した場合、ショットクロックは14秒となる。 | × | 第17条 スローイン | C | インプリ 17-15 |
| 125 | 第4クォーター残り1:18で、バックコートからチームAにスローインが与えられた。このときチームAにタイムアウトが認められた。タイムアウトのあと、コーチAはフロントコートからのスローインを選択した。スローインが行われる前に、コーチBがタイムアウトを請求した。コーチAは戦術を変更しバックコートからのスローインを選択した。 | × | 第17条 スローイン | B | インプリ 17-19 |
| 126 | 第1クォーターと第2クォーターの間のプレーのインターバル中に、A1はB1にアンスポーツマンライクファウルをした。第2クォーター開始の前に、リバウンダーなしでフリースロー2本がB1に与えられる。チームBのフロントコートのスローインラインからのスローインでゲームが再開される。チームBのショットクロックは14秒になり、ポゼッションアローは逆向きにはならない。 | ○ | 第17条 スローイン | A | インプリ 17-26 |
| 127 | 第2クォーターで、A2がフロントコートでドリブルをしているときA1にテクニカルファウルが宣せられた。リバウンダーなしでフリースロー1本がチームBに与えられる。ゲームが止められた場所に最も近い位置からのスローインとしてボールはチームAに与えられ、ショットクロックは継続される。 | ○ | 第17条 スローイン | C | インプリ 17-40 |
| 128 | 第2クォーターで、A2がフロントコートでドリブルをしているときB1にテクニカルファウルが宣せられた。この時ショットクロックは13秒を示していた。審判はリバウンダーなしでフリースロー1本をチームAに与えたあと、ゲームが止められた場所に最も近い位置からのスローインとしてチームAにスローインのボールを与えた。ショットクロックは14秒にリセットされる。 | ○ | 第17条 スローイン第29条 24秒ルール | B | インプリ 17-41、29/50-12 |
| 129 | 第4クォーター残り1:47、ショットクロック18秒でA1がバックコートでドリブルをしている時、A1にテクニカルファウルが宣せられた。ここでチームAにタイムアウトが認められた。タイムアウトのあとリバウンダーなしでフリースロー1本がチームBに与えられる。コーチAがフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した場合、チームAのショットクロックは継続となる。 | × | 第17条 スローイン | B | インプリ 17-44 |
| 130 | 第4クォーター残り1:47で、A1はバックコートでドリブルをしていて、B1がボールをアウトオブバウンズに出した。この時ショットクロックは18秒を示していた。ここでチームAにタイムアウトが認められた。直後にA1にテクニカルファウルが宣せられた。タイムアウトのあと、リバウンダーなしでフリースロー1本がチームBに与えられる。コーチAがフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した場合、チームAのショットクロックは継続となる。 | × | 第17条 スローイン | A | インプリ 17-46 |

| | | | | | | |
|-------------------|--|---|--------------------------------------|--|----------------------------|---------------|
| 【Q22-Q25】 新ルール | 131 | ドリブルをしていたA1が、ボールを持った後、バックボードに向かってボールを当て、他のプレーヤーがボールに触れる前に空中でボールをキャッチしてそのままシュートをしたので、ダブルドリブルを宣した。 | × | 第24条 ドリブル | C | ルールブック 24-1-4 |
| | 132 | A1がフロントコートでドリブルをしているとき、ショットクロック残り6秒でB2がA2に対してファウルをしアンスポーツマンライクファウルが宣せられた。審判はA2に2本のフリースローを与え、チームAにセンターラインのアウトからスローインのボールを与えた。ショットクロックは14秒になる。 | × | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | D | インプリ 29/50-20 |
| | 133 | ショットクロック残り17秒でA1がシュートを放った。ボールが空中にあるときに、B2がA2にファウルをした。これはチームBのそのピリオド2個目のチームファウルだった。そしてボールはバスケットに入った。審判はA1の得点を認め、ファウルがあった場所に最も近い位置からチームAのスローインでゲームを再開した。ショットクロックは24秒となる。 | × | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | C | インプリ 29/50-28 |
| | 134 | A1がシュートを放ち、ボールがリングとバックボードの間に挟まった。ポゼッションアローはチームAを示している。ショットクロックは残り8秒を表示している。バックボード横のエンドラインからのスローインがチームAに与えられ、ショットクロックは継続となる。 | × | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | D | インプリ 29/50-43 |
| | 135 | A1のフィールドゴールのシュートがリングに当たって弾んだ。B1が空中にジャンプしボールをキャッチしてコート上に下りた。A2がB1の手からボールをはじき出し、A3がボールをキャッチした。チームAのショットクロックは24秒になる。 | ○ | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | C | インプリ 29/50-45 |
| | 136 | バックコートにいるA1が同じくバックコートにいるA2にパスをした。A2はボールをキャッチできず、チームAのバックコートでボールがアウトオブバウンズに出た。ボールがアウトオブバウンズに出た場所に最も近い位置からチームBにスローインが与えられ、ショットクロックは24秒となる。 | × | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | C | インプリ 29/50-51 |
| | 137 | 第4クォーター残り58秒で、チームAのバックコートでB1がA1にファウルをした。これはチームBの3個目のチームファウルであり、ショットクロックは19秒であった。チームAにタイムアウトが認められ、コーチAはフロントコートのスローインラインからのスローインを選択した。チームAのショットクロックは14秒になる。 | ○ | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | C | インプリ 29/50-57 |
| | 138 | チームBがバックコートからスローインしたボールを運んでいる際に、B1がバックコートでチャージングを宣せられた。ゲームはチームAがフロントコートのアウトからスローインして再開され、ショットクロックは14秒にリセットされる。 | ○ | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | D | ルールブック 29-2-2 |
| | 139 | チームAのゴール後、チームBがエンドラインのアウトからスローインしたボールをA1がセンターラインの手前（チームBのバックコート）でカット（保持）した。その後直後にB2がA1に対して触れ合いを起こしファウルを宣せられた。そのファウルはチームBの3個目のファウルであった。ゲームはチームAがフロントコートのサイドラインのアウトからスローインして再開され、ショットクロックは14秒にリセットされる。 | × | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | B | インプリ 29/50-12 |
| | 140 | チームAのゴール後、チームBがエンドラインのアウトからスローインしたボールをA1がセンターラインの手前（チームBのバックコート）でカット（保持）した。その後直後にB2がA1に対して触れ合いを起こしファウルを宣せられた。そのファウルはチームBの2個目のファウルであった。ゲームはチームAがフロントコートのサイドラインのアウトからスローインして再開され、ショットクロックは24秒にリセットされる。 | × | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | A | インプリ 29/50-12 |
| | 141 | チームAのゴール後、チームBがエンドラインのアウトからスローインしたボールをA1がセンターラインの手前（チームBのバックコート）でカットしようとしたとき（A1が保持する前に）、B2がA1に対して触れ合いを起こしファウルを宣せられた。そのファウルはチームBの4個目のファウルであった。ゲームはチームAがフロントコートのサイドラインのアウトからスローインして再開され、ショットクロックは14秒にリセットされる。 | ○ | 第29条 24秒ルール 第50条 ショットクロックオペレーターの任務 | A | ルールブック 29-2-2 |
| | 142 | チームAは2個、チームBは3個のチームファウルであるとき、ドリブルをしているA1とB1がほとんど同時に互いにファウルをした。この場合は両チームのファウルの罰則が等しいため、ダブルファウルになる。 | ○ | 第35条 ダブルファウル | C | インプリ 35-2 |
| | 143 | チームAは2個、チームBは5個のチームファウルであるとき、ドリブルをしているA1とB1がほとんど同時に互いにファウルをした。この場合はダブルファウルにならない。審判はどちらのファウルが先に起こったかを決定し、A1のファウルが先に起こった場合チームBのスローインは取り消され、フリースロー2本がA1に与えられる。 | ○ | 第35条 ダブルファウル | B | インプリ 35-4 |
| | 144 | 第3クォーターですでにアンスポーツマンライクファウルを宣せられたB1が第4クォーターでA1にファウルをした。審判はそのファウルをアンスポーツマンライクファウルにアップグレードすべきかを確認する必要があると判断した。クォーターがIRSレビューを行っている間にB1がテクニカルファウルを宣せられた。IRSレビューの結果、B1によるA1へのファウルはアンスポーツマンライクファウルであった。B1は2個目のアンスポーツマンライクファウルによって失格・退場になるが、テクニカルファウルはなかったものとみなす。 | ○ | 第36条 テクニカルファウル 第37条 アンスポーツマンライクファウル | A | インプリ 36-39 |
| | 145 | A1はツーポイントシュートを打とうとしたときB1にファウルをされた。A1が最初のフリースローを打ったあとA2がテクニカルファウルを宣せられた。A2のテクニカルファウルによるフリースローがチームBに与えられたあと、2本目のフリースローがA1に与えられる。 | ○ | 第36条 テクニカルファウル | C | インプリ 36-45 |
| 146 | A1がフィールドゴールのシュートを打った。ボールが空中にあるときB1にテクニカルファウルが宣せられた。A1のシュートが成功しなかった場合、 テクニカルファウルのためにチームAにフリースローが与えられたあと 、オルタネイティングポゼッションのスローインでゲームが再開される。 | ○ | 第36条 テクニカルファウル | B | インプリ 36-47 | |
| 147 | シュートの動作中にA1がボールを持ったとき、A2にテクニカルファウルが宣せられた。A1のシュートが成功した場合は得点を認め、A2のテクニカルファウルのためのフリースローをチームBに与えたあと、エンドラインのアウトからチームBのスローインでゲームが再開される。 | × | 第36条 テクニカルファウル | B | インプリ 36-49 | |
| 148 | シュートの動作中にA1にB1が触れ合いを起こしファウルが宣せられた。A1のシュートは成功したが、A1がB1に対して威嚇行為を行ったためテクニカルファウルが宣せられた。A1の得点は認められるが、両方の罰則が等しいため相殺されて、チームBのスローインでゲームが再開される。 | ○ | 第36条 テクニカルファウル 第42条 特別な処置をする場合 | A | ルールブック 42-2-3 | |
| 149 | A1が5個目のパーソナルファウルを宣せられた。このファウルはチームAの2個目のチームファウルであった。いら立ったA1は審判を侮辱しディスクォリファイングファウルを宣せられた。A1は失格・退場になり、ディスクォリファイングファウルはコーチAに記録される。 | ○ | 第38条 ディスクォリファイングファウル | B | インプリ 38-6 | |
| 150 | コート上にいるA1とB1で暴力行為が始まり、A6とB6がコートに入ってきたが暴力行為には加わらなかった。A7はコートに入ってきてB1の顔面を殴った。A1とB1、A6とB6、A7はそれぞれ失格・退場になり、A1、B1のディスクォリファイングファウルの罰則とコーチAとコーチBのテクニカルファウルの罰則が相殺され、暴力行為が始まる前の状況からゲームを再開する。 | × | 第38条 ディスクォリファイングファウル 第39条 ファイティング | A | ルールブック 38-3-4 インプリ 39-5 | |